

投票率アップには？

星槎国際高 選管が出前講座

星槎国際高校帯広キャンパス（森実さとみキャンパス長、生徒94人）で、帯広市選挙管理委員会による出前講座が開かれた。

同校では生徒の主権者意識を高めるため、毎年、3年生を対象に出前講座を受けている。今回は選挙権年齢の18歳への引き下げが決まったのを受け、対象を1、2年生にも拡大。6月30日に12人が受講した。

市選挙事務局の今克司選挙課長が講師を務め、選挙の基礎知識や歴史などを説明。今回の選挙権年齢引き下げが市民の運動で勝ち取ったわけではない点が、過去の選挙権拡大の流れと異なる点を強調した。

若年層の投票率が低迷する現状も紹介。「政治家は投票してくれる国民の意見

を政策に掲げる傾向がある」とし、投票しないことが自分たちにとって損になる可能性を指摘した。ネット選挙についても触れ、フタ選挙についても使った選挙運動に伴い、高校生が無意識に犯しかねない選挙違反があることを伝えた。

最後に生徒は、どうすれば若者の投票が増えるかの設問で、実際の投票用紙に意見を記入。「携帯やパソコンで投票できるようにす

るといい」「立候補者が直接学校に来て演説してほしい」などと記し、投票箱に投じた。

（丹羽恭太）



若者の投票率アップの方策を書いて投票用紙を投じる生徒